

令和5年11月15日

大阪府立柴島高等学校 第2回 学校運営協議会 議事録

1 会議日時 令和5年11月15日(水) 14:00~16:00

2 開催場所 大阪府立柴島高等学校 校長室及び各教室

3 委員

	氏名	資格	所属	出欠
会長	森田 英嗣	学識経験者	大阪教育大学 教授	○
副会長	山本 了照	地域の関係者	大阪市立淡路中学校 校長	○
委員	武田 緑	地域の関係者	Demo(教育ファシリテーター・武田緑事務所) 代表	○
委員	表西 貴文	地域の関係者	大阪市新大阪人権協会 評議員	○
委員	坂本 浩子	その他の関係者	大阪府立柴島高等学校後援会 会計	×
委員	坂元 直美	保護者	大阪府立柴島高等学校PTA 会長	○

4 事務局(学校側)

小畑 龍業(教頭) 三輪 真嗣(首席) 内田 清彦(首席) 中川 智子(人権教育主担)  
堀 博俊(事務長) 森田 正良(校長)

5 次第

- 校長あいさつ
- 会長あいさつ
- 授業発表会動画視聴
- 授業見学
- 協議案件
  - ・授業見学のふりかえり
- 事務局より報告
  - ・創立50周年記念式典について

6 会議の概要

○授業発表会動画についての質疑応答

委員) この動画作成の目的は何か?

事務局) 多くの選択科目があるため、生徒は自分の選択している科目以外でどんなことをしているのかほとんど知らない。それを知ってもらいたいというのが目的。広報に以前は全校生徒の前で発表する形をとっていたが、準備も含め大変だった。動画にしたことで発表のハードルが下がり、より多くの授業の発表が可能となった。

## ○授業見学のふりかえり

委員) (卒業生である自分としては) とても懐かしい気持ちになった。興味や関心に応じて様々な科目を選べるのはとても良い環境だ。もう一度入学したらどんな科目を選ぼうかなと思った。ただ、受験のある生徒はまず受験科目から選んでいく。せっかくこんなにたくさんの科目があるのに、ちょっともったいないと思う。

委員) 自分の子どもが来年「手話」を選んでいるが、あんなすごい授業を見て、大丈夫かと思った。たくさんの選択科目の中があるので、自分に合っているものを見つけられたら良いと思う。(選択してみて)「思っていたのと違う」と感じて、最後までしっかり取組んでほしい。また、自分がヘルパーをしていたこともあり、福祉棟の設備を見て感動した。

委員) 男子生徒が少ないと感じた。以前に比べて科目数が減ったのは残念。先生方は大変だが、選択科目は柴島高校のウリだと思う。現実に即した教育実践が重要だ。地元の高校として頑張りたいと願っている。

委員) 総合学科ゆえの悩みもあるだろう。これだけスキルの高いスタッフを集めるのは大変だと思う。「手話」では実際に聴覚障がいのある講師の方が指導されていた。生徒にとって素晴らしい出会いになっている。ところで、生徒が「フランス語」を選択する動機は何か？

事務局) フランス語を何かに活かそうと思っている生徒はほぼいない。ほとんどはフランスの文化も知らないと思われる。何か関心があるのだろう。

委員) 自分も「フランス語」を選択していたが、当時はフランスの映画や音楽に興味を持っていた。

事務局) 本校で開講している外国語(英語・韓国朝鮮語・中国語・フランス語)の中では、フランス語だけがやや趣が違っている。それ以外はかなり実用的だと思われる。

委員) 実用的ということ言えば、スペイン語の方が実用的ではないか。

委員) なぜ「フランス語」を設定しているのか？

事務局) 総合学科に改編された当時、たまたまフランス語のできる教員がいたから開設された。

委員) 今後、時代のニーズに合わせて、科目の新設などの予定はあるのか？

事務局) 新カリキュラムへの移行に伴って選択科目を整理したばかりなので、今すぐに変更することは考えていない。科目の新設にあたっては、やはり担当者の問題が大きい。特定の教員しか担当できない科目を設定することは難しい。

委員) 柴島高校を志望する中学生に対し、ニーズ調査はしているのか？

事務局) 教育課程は前もって提出しなくてはいけないので、ニーズ調査をしても、それが反映されるのは3～4年後になる。その間にニーズが変わっている可能性もあり、調査する予定はない。以前と比べて、総合学科に対する中学生の関心も変わってきている。人権教育に対する反応もかなり好意的になっており、中学校の先生方の見方も変わってきた。学校として大きな理念を持っているので、それに沿った学校づくりをしていくべきだと考える。

会長) 多様な授業と先生方の工夫、そして生徒が一生懸命取り組んでいる姿に感銘を受けた。「ライブプランニング」は複数の担当者が同じ授業をしているので、準備や振り返りなどは大変だと思われる。これを持続させていくことだけでも手間がかかるだろう。また、学習サポーター等も多く入り込んでいたが、これらを調整する先生も大変だ。大学では動画教材を活用しており、それを視聴したうえで授業を行うことが浸透している。

事務局) 著作権の問題もあり、既存の教材をネットに流すのは難しい。教員が作成したものであればよいのだが。

委員) 教員が動画を作成している余裕はないのではないか。ただ、動画教材は登校できない生徒への支援にも使えるというメリットがある。

委員) 「総合的な探究」の扱いはどうなっているのか?

事務局) コアカリキュラムの中に含めている。

委員) 男女比について、多様性の観点から、もう少し男子がいた方がいいと思うが、学校の見解は?

校長) 学校としての統一見解ではないが、私見としては、やはりもう少し男子がほしいと思っている。ただ、男子にとって何が魅力になるのか、名案は浮かばない。

委員) 授業よりも部活動ではないか。

校長) たしかに、女子が「活躍し、集まる」という循環ができあがっている。

事務局) 男子は普通科志向が強く、中間学力層はほぼ私学に流れていく。女子は選べることに魅力を感じるが、男子は言われたことをやるという傾向がある。

委員) 根拠はあるのか?

事務局) 多くの中学校教員からの情報に基づいている。

委員) 総合学科全体として女子が多いのか?

校長) 総合学科の学校は全体として女子が多い。前任校も総合学科だったが、やはり女子が多かった。男子は、依然としてレールに乗ることを社会的に要請されることが多いので、普通科志向になる。女子は、そこから比較的自由であり、自分のやりたいことがやれるということで、総学科に魅力を感じるのではないかと思う。

事務局) 「4年制大学から総合職」という未来にあまり魅力を感じていない。それよりも、専門職となり、キャリアを中断しても継続できるような仕事を求める傾向がある。専門志向の強さから、専門学校への進学が多くなっている。

委員) そのような進学実績を見て、いよいよ男子が来なくなるということか。

事務局) 分析はできていても、対応は難しい。

#### ○創立 50 周年記念式典について

事務局) 創立 50 周年記念式典は、来年 11 月 2 日 (土)、場所は豊中市立文化芸術センターで実施することが決まった。記念事業として、教室のリフォーム等の施設改修を考えている。詳細については、また進捗に応じて報告したい。

委員) 周年行事に向けて、何か予算は付くのか?

事務局) 周年行事用に積み立てている P T A の特別会計が主な財源である。

校長) 公費が付くことはない。

会長) 台湾に行ったとき、どの学校にも校史室というのがあった。ミュージアムのようになっており、来校者がその学校のことを知るできるようになっている。

委員) 前任校には、統廃合になった経緯もあり、そのような部屋があった。写真等がたくさん展示されており、同窓生がよく訪ねてきていた。

事務局) ぜひ参考にさせていただきたい。来客対応にも活用できる。

#### 7 第 3 回学校運営協議会について

2 月 7 日 (水) 15:00~16:30 で開催予定